

## 積立投資モデルケース “二十歳(はたち)になったら1万円”

投資信託協会 広報部調査広報室

### 1. なぜモデルケースを提示するか

わが国では、退職後の生活は基本的に公的年金等で保障される。それに加えて、退職時までに1000万円、2000万円といった金融資産を形成しておくことによって生活にある程度のゆとりをもたらすことは、多くの人に共通した願いではないだろうか。

一方で、資産形成の意識がありながら、具体的にどのような方法で行えばよいかわからないという人も多いと思われる。特に低金利が続き、預金などの金利商品のリターンが低い環境ではなおさらであろう。また、若い方々には多額の貯蓄を行う余裕は少なく、退職までの長い期間を通じた資産形成と言われても実感できないという声も多いと思われる。

そこで、ある程度実感をもたらすことのできる方法の一例示として、年代に応じて積立拠出金を増額しながら国際分散投資を行う積み立てを提示したい。もちろん、目標とする資産額、所得水準、資産形成の方法は、人によって違いはあるが、一助として、具体的なモデルケースを示したい。

我が国には、「20歳になったら国民年金」というフレーズがある(日本年金機構)。これに並列して、「二十歳(はたち)になったら1万円」というキャッチフレーズを掲げ、毎月拠出できる程度の額の長期積立投資を促したい。

### 2. モデルケース

現役層、すなわち年金保険料を払い始めてから支給を受ける時期に近い、20代から50代までの各年代に、おおよそ所得に応じて積立金を増やしていくモデルケースを提示する(図表)。各人の目標資産額や所得水準などに応じて、毎月の積立額を、その1.5倍や2倍、あるいは半分にするような応用も考えられる。

積立にあたっては、確定拠出年金やつみたてNISAといった非課税積立投資を活用し月次で複利運用されるものと想定し、投資対象は、少額から資産分散が可能な投資信託を活用するものとしている。また、非課税積立投資制度が長期間継続することを前提にしている。

リターンは、過去40年余りの国際分散投資の実績から、信託報酬の平均を控除した5.8%と想定した(注1)。リスクは、同実績では9.35%である。20歳から、20代1万円、30代1.5万円、40代2万円、50代3万円で60歳まで国際分散投資によって積み立てた場合(拠出総額900万円)のモンテカルロシミュレーション(10万回)の結果によれ

ば、平均値、中央値ともに2,000万円を超え、1%の確率で1,000万円であった(注2)。この結果からは、長期の国際分散投資によって、目標となるような資産を形成することは決して不可能ではなく、少なくとも拠出額を大きく下回るようなことになる確率はかなり低いと考えられる。

このシミュレーションによれば、少額でもできるだけ若い時から積み立て投資を始めた方が資産を形成しやすいことがわかる。また、30代以上になってから国際分散積立投資を始める場合には、同時に既に保有している金融資産の配分の見直しを検討することも必要だろう。

なお、この積立投資のほかに資産形成がされないとした場合、リスク性資産割合が高まると考えられる。この点については、p.99 大庭研究協力者の「資産運用のライフサイクル理論」を参照されたい。

【図表 年代に応じた積立額による積立モデルケースシミュレーション(二十歳になったら…)】

(単位:円)

1万円			1.5万円			2万円		
20代	10,000		20代	15,000		20代	20,000	
30代	15,000		30代	20,000		30代	30,000	
40代	20,000		40代	30,000		40代	40,000	
50代	30,000		50代	40,000		50代	60,000	
<b>20代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>20代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>20代</b>	積立拠出額	積立評価額
10年後	1,200,000	1,608,148	10年後	1,800,000	2,412,221	10年後	2,400,000	3,216,295
20年後	3,000,000	5,238,289	20年後	4,200,000	7,455,397	20年後	6,000,000	10,476,579
30年後	5,400,000	12,421,769	30年後	7,800,000	17,926,137	30年後	10,800,000	24,843,539
40年後	9,000,000	26,653,759	40年後	12,600,000	37,934,972	40年後	18,000,000	53,307,519
<b>30代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>30代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>30代</b>	積立拠出額	積立評価額
10年後	1,800,000	2,412,221	10年後	2,400,000	3,216,295	10年後	3,600,000	4,824,443
20年後	4,200,000	7,455,397	20年後	6,000,000	10,476,579	20年後	8,400,000	14,910,794
30年後	7,800,000	17,926,137	30年後	10,800,000	24,843,539	30年後	15,600,000	35,852,274
<b>40代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>40代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>40代</b>	積立拠出額	積立評価額
10年後	2,400,000	3,216,295	10年後	3,600,000	4,824,443	10年後	4,800,000	6,432,591
20年後	6,000,000	10,476,579	20年後	8,400,000	14,910,794	20年後	12,000,000	20,953,157
<b>50代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>50代</b>	積立拠出額	積立評価額	<b>50代</b>	積立拠出額	積立評価額
10年後	3,600,000	4,824,443	10年後	4,800,000	6,432,591	10年後	7,200,000	9,648,886

※各年代の違いは、夫々の年代から始めた場合の試算額を示す。

(注1) 国際分散投資のリターン・リスク

- ・国際分散=均等分散
- ・データ期間: 1970年1月から2020年10月まで(外国債券のみ1985年1月から)
- ・利用した指数

国内債券	Nomura-BPI 総合
国内株式	TOPIX (配当込み)
外国債券	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし)
外国株式	MSCI-KOKUSAI (配当込み、ヘッジなし)

- ・リターン 6.85%—株式投資信託報酬平均(2020年10月末値)1.05%=5.80%
- ・リスク 9.29%

	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式	国際分散
平均	5.06%	7.37%	4.95%	8.61%	6.85%
標準偏差	3.26%	17.77%	10.17%	17.92%	9.29%

(注2) モンテカルロシミュレーション結果

結果: パーセンタイル値と平均(万円)

	1%	5%	10%	25%	50%	平均	75%	90%	95%	99%
国際分散投資	1109	1387	1570	1934	2463	2668	3169	4012	4638	6133

